

信濃路の旅

佐伯史談会会員
相野清史談会会員

富高辰平 治

かねて、老衰するまで一度、老妻をつれて信濃の善光寺さんに参詣したいと思つていたので、昨年十一月月初旬、埼玉鼻大宮に居る娘夫婦と孫二人の六人で出かけることにした。

大宮駅から信越線で高崎を過ぎ、やがて浅間山を右に整井沢を過ぎる頃から、秋晴れのよい天気であつたのが薄曇りとなつたので、絶好の旅行日和とはいえないが、晩秋の信濃路も、旅情をそそるにはまますの天気であつた。

やがて小諸に下車、程近い小諸城址まで歩いたが、若い頃読んだ島崎藤村の

小諸なる古城のほとり
雲日く遊子悲しむ
緑なすはこべは靡へず
若草もしくによしなし
しるがねの倉の岡辺
日に落けて淡雪流る

の詩を思いながら、「懐古園」という扁額のかかつた樓門をくぐればすぐ城址になるが、左右の旅客相手の店の

並ぶ中を、昼食時に閉もないので「草笛」という蕎麦家に入つた。有名を信州蕎麦で腹をこさえ、少し歩いて藤村記念館に入り「若菜集」や「夏草」などの初版本に見入り、藤村の小諸時代の思い出をなつかしむ。若い頃何度も読んだ詩に思いをよせつつ、少し歩けば城址の西北隅に出で、藤村の筆で「千曲川旅情の歌」の彫られてある銅板をはめこんだ詩碑の前で、詩碑を背景に老妻と共に寫真を撮つた。

展望台に立てば、前日断崖になつて、其の下はるかには千曲川の河床が羊腸として連なり、河床は累々たる石の原で、其の中をわずかな水が一寸じ、曲りくねつて流れている。遠く赤く塗られた鉄橋が浮かんで見える。左右はもえる樺なども黄に赤に染られ、藤村ならず共、旅情をそそるにふさわしい。

遠く日本アルプスの連山がまた雪の装いもまなく、はるかに霞んで雄大な姿を見せている。曇つていた空から、パラパラ小雨が降り出したがぬれる程でもなく、行き交う人も多い。

幾度か栄枯の夢の
消え残る谷を下りて
河波のいざよふ見れば
砂まじり水巻き遠る

の詩も浮かんできたが、今の城址は時の流れと共に変わり、昔の武将の時の面影は消え失せ、文豪藤村ゆかりの地として価値付けられているようだ。

暮れ行けば浅間も見えず
歌悲し佐久の草笛
千曲川いざよふ波の
岸近き宿に上りて

瀧り酒濁れる飲みて
草枕しばし慰む

藤村のそんな当時の生活まで思いつつ、城址の公園にある動物園など、孫等と共に午後三時頃まで遊ぶ。もなじちり敷く道を下り、人影もまばらになつた雨模様様の城址に別れた。

小詣を辞して汽車で上田に行けば、これも城址のみ残る上田城、真田氏の昔をしのびながら馬子唄でなじんでいる。

小詣出て見りや浅間の山に

今日も煙りが三筋立つ

と昔馬子達が、馬の手綱をとって往來したであらうのどか姿姿が、絵巻物のようになつて去來する。

上田から見た浅間山は、なだらかな裾野の黄色になつた晩秋の野に、白樺、ぶち、から松の色鮮やかを眺めれば、南国九州などでは見ることの出来ぬもので、信州高原ならではの感を深くした。

上田を後に、タクシーでリンゴの赤く実つたのを見ながら、かおて予約していた別所温泉のつるや旅館に着き、旅の疲れを湯に流した。

翌日は六時起床、八時の朝食までを近所の、善光寺の南面に対して北面観音・圓空の八角三重塔・安寺・北原白秋の歌碑等を見て、宿に帰り食事をすませ、汽車で上田に出る。昨日に変わる好い秋日和の日ざしを車窓に受けて長野におり、人波の中に加わつて、念願の善光寺の山門をくぐり、線香の煙一日中絶ゆることのない焼香所に進み、恭しく参拝、餘命の平安を祈つた。

長野駅から帰路につき、信濃平野を流る信濃川、川中島に武田・上杉の古戦場をしのび、戸隠山にも云つたが子供連れ故割愛し、又の日に残した。

さて、近年は何処も経済発展による企業の進出目ざましく、大小の会社の煙突が立ち、黒煙を噴いて居る状態は日本中到處に見る現象だが、信濃平原も其の例にもれず、金はもうかるが自然は破壊され、公害で健康は損せられ、大事な命より、金もうけに重点があるの感がするのび惜しいことだ。

高原信州の栄光を祈りつつ、軽井沢を過ぎ、噴煙薄く上る浅間山に名残を惜しんで、六時過ぎ大宮に帰つた。

(おわり)

二月から三月にかけての

いろいろを催しと、佐伯史談会の動き

○ 二月三日(土曜) 午後一時から、平田幸市先生の窯場訪問、実地に行かぬ見し、光本家で平田先生及び光本夫人の窯焼作品拝見、お話を承る。会員十名出席。

○ 二月四日(日曜) 大分探勝歩こう会を本丘村に迎え、お茶、餅、方両名現地案内、小半鐘乳洞、戸地獄(谷辰洞)分所共)を探つた上、弥生所小倉藤崖塔、佐伯市上岡十三重塔と見物する。

○ 二月廿六日(月曜) 東京より、田川孝三先生を迎え、佐伯文庫、残存本の調査に協力する。会員五名、終日毛利家倉庫に詰めて、大いに啓蒙される。

○ 同日 廿七日(火曜) 前日に引続いて佐伯文庫本の調査四名御加勢、午後四時からつたや旅館でお話を聞く会、十六名出席。
○ 三月一日(水曜) 殿三上寺跡踏査、下つて高野嶺湖定訪問、主として郡役所についてお話を聞く、六名出席。